

令和4年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人 清風會	代表者	理事長 森 崇文	法人・ 事業所 の特徴	社会医療法人が運営しており、医療機関（在宅支援診療所・地域包括ケア病棟）訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所との連携がとりやすい。「いつまでも住み慣れた街で一緒に自分らしく暮らす」そのための仕組み作りに法人で取り組んでいる。一人暮らしの方でも認知症があっても、地域の自宅で長く暮らせるように、訪問介護に力を入れている。また、内服薬の管理がうまくできないことで入退院を繰り返すことがないように内服薬管理と健康チェックに力を入れている。医療がすぐ近くにある安心感を持っていただける事業所である。
事業所名	あかるい農村つやま	管理者	小椋 美恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	人	1人	1人	4人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者さんの事をスタッフ一人一人がさらに知ることができるように、朝礼、終礼の情報共有方法を効率的に改善していく。利用者家族への説明やコミュニケーションを深めていく。	利用者さんの情報共有は朝礼、終礼時間を活用し密にやり取りができるようになった。利用者さんや家族とのコミュニケーションは役割的に深くとっている職員とそうでない職員がいるが、改善傾向にある。	職員みんなで改善計画には取り組んでいると思う。	利用者さん一人一人がやりたいことを見つけて、動くことができる為には、業務の仕組みを変えていく必要がある。業務配分ややり方を検討して個人計画をみんなが取り組めるように業務改善をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	会報誌を2か月に1回配布していたが、事業所からのお知らせ等も含めて毎月発行しながら事業所の様子を発信していく。	会報誌の発行は前年度通りで毎月発行はむつかしかった。	事業所の様子は会議の時に配布される会報誌でよくわかる。家族にも毎月送っているとのことで良いと思う。事業所への車の乗り入れがし易い様駐車場の工夫をしてみてもどうか	引き続き行事の様子などのお知らせを発行する。事業所のしつらえに関しては地域の方が来所しやすいように駐車場などのスペースを検討工夫する。
C. 事業所と地域のかかわり	地区の行事への参加をしていく。地域包括支援センターが開催するアルツハイマーデーなどの企画に参加し地域に利用者さんが関わり楽しめるように取り組む。	地区行事はほとんどなく参加できなかった。アルツハイマーデーのお知らせも途中で途絶えた。施設内の行事は楽しくできた。	法人全体の企画で地域への発信企画があれば旧日本原保育園など使用してもらっても大丈夫。地区の行事が復活したら参加してください。	コロナ禍で休止していたスマイルカフェの復活も含め、法人全体で企画を考えていく。地区の方との関りが持てる企画を考えていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ感染予防をしながら、地域へ出かけていくことを心がける。ボランティア情報を集める。地域ケア会議へ全員が1回以上参加する	地域へのかかわりが負担とを感じる職員もいる。ケア会議は業務調整がうまくできず、参加できていない職員もいる。ボランティア情報も集めにくい。	民生委員という立場でもなかなか関りがむつかしいと感ずることがある。コロナ禍で行事も自粛が多かったが、地区の役員の方に情報収集してください	地区役員さんやご家族を通じて地区行事の情報を収集していく。買い物やお出かけ希望を聴きながら、アクティビティとして取り組んでいく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議へスタッフの参加を増やす	運営会議へのスタッフ参加もできるだけ参加人数を増やせるように考えていたが、スタッフ移動やコロナ禍でのこともありまだ参加できてないスタッフもいる。	地域には女性の会があるのでそちらに参加していただくのは可能。また利用者さんが多い地区の方を運営推進委員さんとして入ってもらおうとよいのでは	地区のお困りごとや、利用者さん以外のことでも会議の中で話し合っていく。
F. 事業所の防災・災害対策	地区の避難訓練へ参加する。区長さんや地区の方と連携していけるように意識する。個別避難計画を完成させる。	個別避難計画はできておらず、取り組み中。地区の避難訓練連携は計画中。	地区の避難計画も作成中で出来上がったら声掛けをしようと思っている。	計画的に避難誘導訓練を実施していく。引き続き個別避難計画を整備していく。